

科目名	薬理学概論	担当教員	森 満 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	-------------------------

開 講 専 攻	分 野	種 別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	選択	2年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR23CD	②、③					

科 目 概 要	薬理作用を理解するため生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子、細胞、個体レベルで薬理作用のメカニズムを理解し、生体内における薬物の吸収、分布、代謝、排泄の薬理動態を学ぶ。
学 習 目 標	基本原理、分子機構、細胞応答、実験方法、吸収と分布、薬物代謝、アセチルコリン、ノルアドレナリン、プリン類、心臓、血管系、動脈硬化、腎尿路系、消化管、血糖と糖尿病治療、生殖系、骨代謝、中枢神経系、鎮痛薬、抗不安薬、催眠薬、化学療法、抗菌薬、抗ウイルス薬などについて説明できる。

回	項 目	主 な 学 習 内 容	到 達 目 標	実務経験 教員担当 項 目
1	基本原理、分子機構など	基本原理、分子機構、細胞応答、細胞増殖、アポトーシス、宿主防御、など	基本原理、分子機構、細胞応答などについて説明できる。	
2	実験方法、吸収と分布など	実験方法、吸収と分布、薬物代謝、個体差、ケミカルメディエーター、自律神経系、など	実験方法、吸収と分布、薬物代謝などについて説明できる。	
3	アセチルコリン、ノルアドレナリンなど	アセチルコリン、ノルアドレナリン、プリン類、局所ホルモン、カンナビノイド、一酸化窒素、など	アセチルコリン、ノルアドレナリン、プリン類などについて説明できる。	
4	心臓、血管系など	心臓、血管系、動脈硬化、止血と血栓症、造血機構、抗炎症薬、免疫抑制薬、など	心臓、血管系、動脈硬化などについて説明できる。	
5	腎尿路系、消化管など	腎尿路系、消化管、血糖と糖尿病治療、肥満、下垂体、副腎皮質、甲状腺、など	腎尿路系、消化管、血糖と糖尿病治療などについて説明できる。	
6	生殖系、骨代謝など	生殖系、骨代謝、中枢神経系、アミノ酸伝達物質、神経変性疾患、全身麻酔薬、など	生殖系、骨代謝、中枢神経系などについて説明できる。	
7	鎮痛薬、抗不安薬など	鎮痛薬、抗不安薬、催眠薬、抗てんかん薬、抗精神病薬、抗うつ薬、薬物依存、乱用など	鎮痛薬、抗不安薬、催眠薬などについて説明できる。	
8	化学療法、抗菌薬など	化学療法、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗がん剤、スポーツにおける薬物、遺伝子治療、など	化学療法、抗菌薬、抗ウイルス薬などについて説明できる。	
評価方法		筆記試験（記述問題と国家試験形式の多肢選択問題：配点割合は年度によって異なる）（100%）		
課題に対するフィードバック		各回とも講義内容に関する問題集を配布する。その中には、関連する記述問題と国家試験形式の多肢選択問題が含まれている。講義を受講して問題集に解答すること。試験日までに問題集の正解を配布するので、自分の解答を確認すること。試験によって、講義内容の理解度を判定する。		
教科図書		毎回、講義資料と問題集を配布する。		
参考図書		渡邊直樹・監訳『ラング・デール薬理学 原書8版』丸善出版、2018年		
学習の準備		(予習) 1年次に勉強した解剖学、生理学の復習をしておく（90分）。 (復習) 講義で配布した資料と問題集を復習する（90分）。		

オフィスアワー	木曜日午前 9 時～午前 11 時、その他、在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	